

県議会企画経済委員会で県外視察を行いました



【視察の詳細はコチラから】

企画経済委員会として11/13(月)～15(水)3日間、長崎県・佐賀県で視察を行いました。

●長崎市役所(長崎県長崎市)

長崎市の観光施策について意見交換。

●軍艦島デジタルミュージアム(長崎県長崎市)

軍艦島を最新のデジタル動画で紹介している。関ヶ原古戦場の紹介への活用を検討。

●軍艦島視察(長崎県長崎市)

軍艦島整備事業(栈橋や見学施設)を視察。

【写真右】



●多久市ローカルシェアリングセンター(佐賀県多久市)

地方創生として、インターネットを活用し、本来大都市で行う仕事を地方にシェア(分ける)して仕事を創出するための拠点を視察、意見交換。【写真左】



議会運営委員会・県有施設再整備対策特別委員会で県外視察を行いました



●栃木県議会(1月16日)

常任委員会の政策立案機能の強化について意見交換、議会棟の視察。



●群馬県議会(1月17日)

若者の政治への関心を高める取り組みについて意見交換、議会棟の視察。



●愛知県設楽町庁舎(1月30日)

平成26年1月供用開始。設楽町産の桧や杉を使用した平屋建て庁舎。地元産木材を使用することによる効果等について意見交換。

3月8日 平成30年 第1回岐阜県議会定例会で代表質問

ICTの活用による県内農林業の目指すべき方向性について

- 今年度から、本県農林業への人工知能AIやIoTの導入・活用が進められる。
- 農業機械の自動運転、夜間にイチゴを自動収穫するロボット、ドローンに搭載した赤外線カメラにより撮影した、作物の生育状況の画像をAIで分析し、肥料散布や収穫時期を探るもの等、技術は進歩している。今後どのような方向性で取り組むのか。

答弁) 知事(要旨)

- 本県農林業の重要課題は、省力化・高品質生産・流通の合理化であり、ICTやロボット、AI等の先端技術の活用は、これらの課題解決に有効なため、積極的に推進したい。
- 農業では、多くの農業者からの関心が高まっているため、学識経験者、農業団体、農機メーカー、IT企業などで構成する検討会を設置し、「岐阜県スマート農業推進計画」を策定。本県農業の特徴に対応したICTの活用事例や効果をまとめていきたい。
- 林業では、ICTを活用して木材市場や製材工場に必要な木材の種類や量、規格の情報を生産現場に即時に提供する、といった情報の「見える化」を進めるなどの支援をしたい。



来年度から創設される清流の国ぎふ健康ポイント事業について

- 今年度から「清流の国ぎふ健康ポイント事業」が創設される。
- 岐阜市では、昨年度まで健康診査及びがん検診で各1ポイント、健康づくりイベント等への参加で各1ポイント、メニューから自身が選んだ日常の健康づくり活動の実施に1ポイントを付与し、5ポイントを貯めたら指定の応募用紙を岐阜市に郵送し、抽選で景品が当たる仕組みを先行実施。
- 今後は、がん検診や健康診査の受診に対するポイントを高くして意識づけを図り、特典は「ぎふっ子カード」同様、協賛企業や店舗から提供された割引やサービスとし、協賛企業等を増やすことで総参加型の事業としてはどうか。
- 市町村との連携が重要である。県民が主体的に健康増進に取り組める仕組みとして欲しい。

答弁) 健康福祉部長(要旨)

- 検診受診に加え、運動教室や健康講座など、県民の健康づくりにおいて効果的な取り組みをポイントの対象にできるように、市町村とともに検討したい。
- 所定のポイント獲得者に提供する特典は、県や協賛店に加え、市町村が独自に設定することとしたい。
- また市町村の広報媒体の活用による効果的な事業PRなども市町村と連携して実施したい。



搜索救助活動における災害救助犬の効果的な活用について

- 災害救助犬は、阪神・淡路大震災を契機にその存在が知られ、新潟中越地震では岩の隙間に埋もれている2歳の男児を発見し救助したことで有名で、有効な手段である。
- しかし国では法律や災害対策計画に、災害救助犬は位置づけられていない。
- 理由は、救助犬活動が公的活動に繋がるための基盤整備が充分でないことや、救助犬活動の手法が標準化されていないことに課題があり、今後は地方自治体や警察・消防等と連携し、合同訓練や情報交換を通じて、課題を認識し改善することが求められる。
- 災害救助犬団体側にこうした課題があり、出動を要請する県や警察側には、救助犬活動による搜索救助活動をより有効なものにする責任がある。今後どのように連携・協力していくのか。